

# 外国語活動との連携を考えた中学校英語教育 — 中学校教科書と Hi, friends! をもとに —

丹羽都美

岐阜聖徳学園大学教育学部

## English education in junior high school linking with foreign language activities in elementary school

Satomi NIWA

### Abstract

Since 2011, foreign language activities have been offered as new compulsory activities for 5th and 6th graders. The aim of English education in the early stages is to have pupils become familiar with English and communicate actively using English. The ability nurtured in elementary school will be the base for the subsequent English learning in junior high school. However, it is often pointed out that the shift from foreign language activities in elementary school to English education in junior high school has left much to be desired. This paper aims to find a way to stimulate an efficient shift in junior high school English by examining textbook materials.

Key words : “Hi, friends!” , English education in junior high school

### I. はじめに

学習指導要領の改訂により、平成 23 年度より小学校外国語活動が導入され、第 5 学年、第 6 学年とそれぞれの学年において、年間 35 時間の授業時間が確保されている。中学校では、授業時間が従来の年間 105 時間から週 4 時間、年間 140 時間へと増加し、指導する語彙数も、900 語から 1200 語へと増え、英語教育の充実に向けての国としての姿勢が目に見える形で示されている。

その一方で、文部科学省の設置した「英語教育の在り方に関する有識者会議」の平成 24 年 4 月に開催された第三回では、小学校における外国語活動の現状・成果・課題が挙げられており、その中でも小中連携に関しては次のような課題が指摘されている。<sup>12)</sup>

- (1) 小学校においては中学校での指導を意識した指導が、中学校においては外国語活動を踏まえた指導が不十分である
- (2) 小小連携、小中連携の研修では、「学級担任等による外国語活動の参加・協議」や「外国語活動の在り方に関する共通理解。具体的な活動についての共通理解や体験」などに関する研修が 4～5 割程度の学校で実施。一方、年間指導計画や単元計画指導案の作製、検討などを実施している学校は全体の 1～2 割弱。(小学校外国語活動実施状況調査(平成 24 年))

そして(1)については平成 26 年 8 月に開催された第七回「英語教育の在り方に関する有識者会議」<sup>13)</sup>でも、相互の内容を踏まえた指導が不十分であるとされている。そこで、本論文では、特に(1)の課題について、Hi, friends!<sup>10)</sup>と中学校の教科書の内容を照合し、外国語活動と中学校の英語科教育で連携をどのように図ることができるかを考察する。なお、ここでは小学校との直接の接続期となる中学 1 年次に焦点をあて、外国語活動と関連のある言語材料・内容の取り扱いを中心に考えて行くこととする。

## Ⅱ. 小学校外国語活動と中学校英語

ここではまず、学習指導要領をもとに小学校外国語活動と中学校の外国語(英語)教育に求められている事柄を再確認してみることとする。

### 1. 学習指導要領の定める目標

#### 1.1 外国語活動の目標

平成23年度より全面的に実施されることとなった小学校外国語活動について、学習指導要領の定める目標は次のようになっている。

- (3) 外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

この目標を基に外国語活動の内容の主旨としては、言葉を用いたコミュニケーションの在り方、そして外国語を用いた積極的なコミュニケーションの楽しい体験、異文化に対する理解や異文化について知ることを通して他の文化に対しての理解と自身の文化の理解へとつなげることが設定されている。

#### 1.2 外国語(英語)の目標

それでは、学習指導要領の定める中学校の外国語の目標について見てみることにする。

- (4) 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

(3)と(4)の目標と比較すると、小学校では言語や文化に対し「体験的に理解を深める」とされたところが、中学校では「体験」という段階から移行して、「理解を深める」となり、また、音声や基本的な表現に慣れ親しむ段階から、中学校では、「聞く」、「話す」「読む」「書く」の4技能のバランスがとれた育成をすることが明示されていることがわかる。

また、小学校では口頭でコミュニケーションをとる活動を通して音声に慣れ親しんでいることから、中学校の外国語科の目標に基づいて与えられた具体的目標では「聞く」「話す」に関しては、相手の意向を理解し、自分の考えを話すことができるようにすることをあげ、「読む」「書く」については、「慣れ親しむ」という文言とともに初歩的な英語を読んで相手の意向を理解し、初歩的な英語を用いて自分の考えを書くことができるようにするとしている。

ここまででみた小学校と中学校の目標から、小学校では体験的に音声や文化に慣れ親しみ、外国語を用いてコミュニケーションを図ることが進んでのびのびできるようになること、そして、そこで築かれた土台を基に中学校では、読み書きにおいては初歩的であるとしても、全般的に外国語で伝えられた相手の気持ちを理解し、外国語で自分の考えを伝えることができるようになることを求めていることがわかるが、(1)(2)の課題に指摘されているように具体的に内容についてあるいは実施状況について十分な交流・研修・研究をする機会がもたれていないようである。

そこで、以下では小学校外国語活動の教材の一つの指針としてのHi, friends! 1, 2<sup>10)</sup>と岐阜県の公立中学校で採用されているNew Crown English Series1(以下NC1)<sup>7)</sup>とNew Horizon English Course 1<sup>5)</sup>(以下NH1)との内容を比較しながら言語材料の扱いを中心とした連携を考えていくことにする<sup>1)</sup>。

### 2. Hi, friends! と岐阜県公立中学校採用英語教科書

#### 2.1 Hi, friends! の内容と中学一年の内容

ここでは、まずおおまかにHi, friends! 1, 2<sup>10)</sup>とNC1<sup>7)</sup>とNH1<sup>5)</sup>の言語材料等を見比べてみよう。

表1 Hi, friends! 1, 2 と New Crown, New Horizon 1年生用教科書

Hi, friends! 1		New Crown	New Horizon
題材	言語表現	基本文・テーマなど	基本文・テーマなど
1 挨拶・自己紹介	Hello. My name is ~. What's your name? Thank you. Goodbye.	1. I am ~. You are ~. Are you? Yes/No.	(見開き 世界の言葉でこんにちは、ありがとう) 1. I am ~. You are ~. Are you? Yes/No.
2 感情・様子・ジェスチャー	How are you? I'm happy.	1. I'm thirsty. You are good. I'm fine.	7. How are you? 4. It's easy, It's cloudy.

3	数・身の回りのもの	How many pencils? Five pencils.	4.How many ～? 複数形 Words & Sounds 1 数字	Warm-up 5 数字 5.How many+一般動詞? 複数形
4	飲食物・スポーツ・生き物	I (don't) like ～. Do you like ～? Yes, I do. No, I don't.	3. I like/have/play～. Do you?	3. I like ～. Do you? Yes/No. 4. What do you usually have? (食事)
5	色・形	What do you like? What animal/color/ fruit/ sport do you like? I like rabbits/red...	Get Ready 2, 3 3. What do you ...? 4. Word Corner	Warm-up 8 color 4. What + be 動詞?, What +一般動詞?
6	アルファベット・身の回りのもの	What do you want? The 'A' card, please.	Get Ready 3 アルファベット 3. What do you have?	Warm-up 3 アルファベット 4. What do you have ...?
7	身の回りのもの	What's this? It's a piano.	2. What is this? This/that is(not).. He/she is ....	(4. What + be 動詞?) (2. this/that/it) 7 who, what time, what language, which
8	教科・科目	I study ～ on ～. What do you study on ～?	We're Talking 6 What time do you ... ?	3. I like ～. Do you...? Yes/No.
9	食べ物・料理	What would you like? I'd like a hamburger.	Get Ready 2	(3年生 Speaking Plus 1 で Would you like?)
Hi, friends! 2				
	題材	言語表現		
1	言語・文字	Do you have ～? Yes, I do. No, I don't.	3. I like/have/play～. Do you?	(3. Do you like?) 5. Do you have any?
2	行事・月・日付	When is your birthday? My birthday is March eighteenth.	5. who, where, when	speaking plus 2 writing Plus 2 Greeting card 10. where Warm-up 6～7 week, month, date
3	スポーツ・動作	I can/can't ～. Can you ～? Yes, I can./No, I can't.	7. Koji can/cannot... Can Koji...?	10. I can/cannot. Can you? Speaking Plus 3
4	建物・道案内	Where is the school? Go straight. Turn right/left. Stop. Excuse me. Sorry.	we're talking 3 Where is 4. 命令文・否定命令文 We're Talking 8 How can we get to ...? How far?	5 命令文 8 where, whose Speaking plus 2 道案内 9. 否定命令文 Be 動詞の命令文
5	世界の国々・世界の生活	I want to go to Italy. Where do you want to go? Let's go.	3. Mini-project 自己紹介をしよう (8. 他国の中学校生活)	multi plus 1 自己紹介 (7. 他国の中学校生活)
6		I get up at seven. What time do you get up?	Words & Sounds 2 曜日と教科 We're talking 2 What time is it now? (6. 3人称現在形を用いて相手の日課を聞き取って伝える)	multi plus 2 一日の生活
7	世界の童話・日本の童話	We are strong and brave. We are good friends.	(9. listen 昔話を楽しもう)	(3年生 葉っぱのフレディ)
8	職業・将来の夢	I want to be a teacher. What do you want to be?	(2年生 5. My Dream (ここで不定詞))	(2年生 2. My Future Job(ここで不定詞))

ここで見えてくることは、中学1年生の英語科で扱う言語材料は小学校ですでに体験したものだ、ということである。従って、中学校1年生の英語の各時限で、学習目標とする事柄の定着・実用化を図るための実践活動の多くは、すでに小学校の外国語活動で一度体験したものにどうしても類似してくる。中学校での英語教育が小学校の英語を基盤にさらに英語力をつけていくものにするためには、小学校で内容提示とその方法や活動を把握しそれを発展させる内容にしていかなければならない。

## 2.2 言語材料・文字の扱いについて

中学1年生ではHi, friends!<sup>10)</sup>では扱っていない言語材料も出てくる。NC1<sup>7)</sup>、NH1<sup>5)</sup>に共通して、Hi, friends!<sup>10)</sup>では扱われない現在進行形、一般動詞の過去形、三人称と三人称単数現在形が扱われる。そして、該当単元のまとめとして、また、巻末資料として、文法事項の解説、英語という言語自体の構造や表現の背景にある考え方などが日本語とイラストでわかりやすく丁寧に解説されている。外国語活動では表現として使用されるのみで、それがどのような仕組みで生成される表現・文であるのかなど解説は与える必要がないのが前提であるから、中学校では表現が既習であってもその背景にある仕組みを理解し、それを話す・聞くだけでなく、読み書きして初歩的な意思の疎通を図ることができるよう求められている。

また、外国語活動では文字の使用が前提とされていないが、中学校では文字を読み・書きすることが

大前提となっている。従って、本文も単元を追うごとに長くなっていく。そして、単元に付加する形で聞く・話すに重点をおくセクションがあり、それだけでなく、書く・読む活動、または4技能を駆使する活動を中心としたセクションも出てくる。書く場合においては、即応が求められる「話す」と異なり、書くことに伴う思考・再考の時間をとることができるため、単純に「書く」だけでなく、内容の構成も考える作業が加えられるなど、より高度な知的活動を導入することができる。

また、読むことについては各単元の本文だけでなく、読み物教材が組み込まれている。特に、NC1<sup>7)</sup>は「読む」教材がNH1<sup>5)</sup>の1つに対して、Start Reading というセクションからはじめて、読むことに重点を置いた単元を1つ、詩・実話などの読み物2作の計4つを掲載し、読み物の形式の多様性ととも読み方についての指導も与えている。

しかしながら、小学校が必ずしもHi, friends!<sup>10)</sup>を使用しているとは限らず、岐阜市の小学校でも公立・私立を問わず様々な出版物を活用している。例えば、その中の一つに三省堂のKIDS CROWN アドバンストコースがあるが、この中で、少し例を挙げれば、Unit 11において、What are you doing?が学習の中心となる言語材料として扱われており、現在進行形がすでに表現としては扱われ、他にも、Unit 9においては、this/that/these/thoseの使い分けを定着させることが目標の一つになっている。後者については、NH1<sup>5)</sup>ではUnit 8で、NC1<sup>7)</sup>では、Lesson 4で新出表現となっているものである。

また、文字についても、Hi, friends!でも各活動のタイトルが英字で書かれているだけでなく、実際には、それぞれの活動で鍵となる表現が英語で書かれている。また、KIDS CROWN スタンダードコース・アドバンストコースとも量に差はあるが、各単元で使用する会話が英文で書いてある。外国語活動における文字の扱いについて学習指導要領では、第3「指導計画の作成と内容の取扱い」の2.(1)イにおいて、「外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること」としている。従って、上記の書籍でもあくまでも補助として表記されていると考えられるが、実際、これら外国語活動のための出版物においては英語表現を文字で読むという活動にまで広げる指導への可能性も与えていることであり、実践している学校もある。

実際、小学校の国語についての新学習指導要領では、第3学年・第4学年の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」<sup>14)</sup>において、(1)ウ「文字に関する事項」の(1)で、「第3学年においては日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、またローマ字で書くこと」とし、この新学習指導要領についての「Q&A 2. 国語に関すること」<sup>17)</sup>において、問2-3(小学校)のローマ字に関する事項が第4学年から第3学年移行された趣旨等についての答えとして、日常生活でローマ字表記の案内板・小冊子を見、コンピュータ使用の増加にともなうローマ字が児童の身近なものになったことをあげ、ローマ字の読み書きを早い段階で指導することを考えているとしている。

このことを念頭に再度見てみると、Hi, friends!<sup>10)</sup>のLesson 1のLet's Playで名刺を交換させ、それに続くActivityでは、「友だちと名刺を交換しよう」という活動がある。この活動について、指導書では、「日本語通り、姓名の順で表記させる」や、大文字・小文字使用についての指導上の注意があり、実際は外国語活動開始前の国語科のローマ字学習を念頭に置いたものと考えられる。このように、学習指導要領では、原則としてアルファベットは音声を用いたコミュニケーションの補助にとどまり、中学校の教科書はNC・NHともに巻頭もしくは巻末でペンマンシップを提示しているが、実際のところ、アルファベットのブロック体はすでに小学校で書けることになっているということがわかる<sup>2)</sup>。

ここまでは学習指導要領の方針を基に中学一年の英語科の内容の概略を外国語活動と比較してきたが、本論文中ではすべての外国語活動の教科書について網羅することが物理的に不可能なため、その指針としてHi, friends!を対象にしながら実際に中学校での言語材料の扱い方はどのように外国語活動の上に積み上げられるのかについて、その可能性を次に探っていくこととする。

### Ⅲ. 英語力を積み重ねていくために

Ⅱの1.2で小学校外国語活動と中学校英語教育との指導の上で考えられる差・違いをまとめてみたが、さらに考えられる違いとしては、文法事項の学習や発音等に関する解説付きの学習なども考えられる。これらは、重点の置き方によってはコミュニケーションの流れの妨げとなるが英語科教育としては

組み込んでいかなければならないことである。

文法事項に関しては、外国語活動では音声でのコミュニケーションに慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢の養成を求めていることから発話の「言い間違い」でなく、「誤り」についての明示的な指摘はしない傾向にある。しかしながら、中学校での学習では学習指導要領の言語材料の中にも「文法事項」として明記されており、目標にあるように積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てながらも、文法事項として学習し、誤りをなくしていくことが求められる。外国語活動では主に大塚 (2008)<sup>4)</sup>にある exemplar-based processing の作業で定型文さえ身につけていけば、知識量の多さにかかわらず、また脳の負担が少なく処理できたが、中学校英語の学習には rule-based processing も必要となり、それには脳の負担が大きく、時間を要するものとなる。

書く作業においては、誤りに対する指導がより明確に実施できる。また、英語に限らず近年の学習で大切にされている「学習者の気づき」という点では、コミュニケーションの流れを重視するため発話中の誤り指導は難しいとしても、間違いを明示的に指摘するのではなく、間違った表現の発話の後に教師が正しい表現で言うという暗示的な方法で誤りに対する指導がより意図的に導入できる。

渡邊他 (2013)<sup>1)</sup>では、Benesse®開発教育センターの2010年実施の「第1回中学校英語に関する基本調査報告書」で、4技能の中で中学校で最も好きな活動が「書くこと」だったとしている。この結果をもとに中学では短い日記などを書くことを奨励して文を書くことに慣れ日常的なものの名前・表現を調べ、知ることが学外活動として可能性を持っていることを示唆している。クラスでの紹介やグループ活動を通して知識の共有、新しい表現調べの自主的な取り組みを推進することも可能となる。誤りなどにも注意する姿勢をその過程を通して身につけさせることもできる。

また、中学校での学習は高校受験が先に控えていることも避けて通ることができない。そういう意味で文法の事項について、誤りに気づき修正をすることと、コミュニケーションのための実用的な知識というだけでなく教養としての情報として定着を図ることが重要となる。そして、中学校英語になったとたん正確さ・文法に厳密に目を向けるというのではなく、生徒自身が正確さに注意を払うような姿勢を少しずつ築き上げることが望ましいのではないだろうか。それには、間違い・誤りがあった場合に、「そのおかげでみんなも注意する点に気がつけたね」など間違い・誤りが学習を促進し確認をするきっかけとなることを示唆するような言葉で間違えることをためらわない雰囲気をも作り、その中で生徒自身が気付く、次には発表する前に点検をする、発話を自主的に訂正するなど自発的な行動へとつなげていくことが一つの方法とも考えられる。

発音の学習についても、小学校では調音点・調音法などについて詳しく指導をしない傾向にあるが、NC1<sup>7)</sup>・NH1<sup>5)</sup>ともに発音の仕方・音変化について詳しい解説が与えられている。小学校で培ったコミュニケーションに対する積極性に正確さを加えるためにも必要な段階である。母語話者は母語の調音法・調音点等を意識して母語を発話しているわけではない。そのため、この領域の専門的な知識を持っていない英語母語話者の教員の多くは調音点・調音法について明確に解説・指導するのが難しい場合もある。これこそが英語が母語でなく、英語の調音点・調音法を学習し母語を共有する教員の利点となることである。第二言語として学習したからこそ、共有する母語からみた英語の発音についての難点がわかり、目標言語の音声の作り方をわかりやすく指導ができるからである<sup>3)</sup>。また、中学生ともなると恥ずかしい気持ちが先立って発音練習をすることをためらうことも出てくるであろう。教員自らが発音の仕方を大きくゆっくりと恥ずかしがらず示すとともに、繰り返し調音法・調音点などを述べながら授業の最初で必ず発音の Warm-up を行う、積極的に練習する生徒を奨励し、その結果の発音の改善を奨励する、など連続性のある活動、奨励された喜びが実を結ぶのではないだろうか。

外国語活動のコミュニケーションの楽しさから、教科としての側面を取り入れた学習への移行は生徒の心的態度に負担をかけることになる。渡邊他 (2013)<sup>1)</sup>では、先述の Benesse®開発教育センターの「第1回中学校英語に関する基本調査報告書」から、中学入学前と中学校での英語の好き嫌いについて、「入学前：好き→中学校：好き」が18.2%、「入学前：嫌い→中学校：好き」が5.2%、「入学前：好き→中学校：嫌い」が26.7%と入学後に好きから嫌いに転じた生徒の増加率が懸念される結果だとしている。従って現行の中学校英語教育でも行われていることではあるが、楽しみながら着実に実用性と知識としての英語とを身につけていくように授業に教材を組み込んでいかななくてはならない。上記の学習する姿

勢・雰囲気作りとともに、外国語活動でのゲームや活動を中学校英語の内容に合わせて取り入れることを考えるのも効果的だと考える。例えば、外国語活動のひとつに、カテゴリークイズという活動がある。先生がいくつかのものを「これはAグループです」「これはBグループです」というように示す中で、児童がそのグループ分けの規則を見つけ出したり、それをもとに新たな要素をグループに分けたりする活動である。これを、一般動詞の過去形の規則変化動詞と不規則変化動詞、複数形語尾の発音や規則変化の過去形語尾の発音の違い、複数形・三人称単数現在形の[s]がつくときの綴りの規則などの学習時の活動に使うことができる。

もう少し具体的に、表1の内容を見比べながらできる範囲で中学校での言語材料の取り扱いについて考えてみたい。最初の単元はともに挨拶で、これは外国語活動でも一番始めに行うものである。この内容について、NC1<sup>7)</sup>では、聞き手が名前を聞き取れなかったという状況を設けて(5)に示すように綴りを教える表現を本文に入れている。

(5) Paul: Excuse me?

Kumi: Kumi. K-U-M-I.

(New Crown English Course 1 (p.17))

「聞き取れなかったらどうするか」「綴りを教える」という言語活動はHi, friends!<sup>10)</sup>の中にはないもので文字指導とともに中学生として一歩進んだ内容にしている。また、NC1<sup>7)</sup>では引き続いて「話す」に重点を置くWe're Talking 1「はじめまして」で自己紹介の挨拶の中に“Please call me Dave.”という表現を入れて、これをこのセクションの鍵となる表現としている。これも新しい表現として積み重ねられていることがわかる。NH1<sup>5)</sup>にはこのような場面は出てこないが、参考にして展開活動の中に取り入れることができる。また、両教科書とも同じ単元の中に相手の出身地を聞く表現も加えている。

挨拶で言えば、NC1<sup>7)</sup>のWe're Talking 2では、“Good morning, Paul.”という表現を用いて、挨拶をする際に名前呼びかけということを鍵となる表現の二つ目としている。NH1<sup>5)</sup>でも、Unit 2で紹介された相手に、“Hi, (名前).”と必ず声をかけるということで、挨拶で相手の名前を言うことの大切さが示されている。実際これは、Hi, friends! 1<sup>10)</sup>のLesson 2で“How are you, (名前)?”として既出の事柄ではあるが、中学校ではこのところに注目させて、日本語よりも英語では会話の中で相手に呼びかけることが多いという日常習慣の違いに気付かせることもまた新しい段階である。

このように、新しい表現とともにさらに深く相手を知る言語活動ができることを意識して活動を展開すれば、コミュニケーション能力の発展に結びつけられる。この名前を呼ぶということについては、英語話者は、どちらかといえば自分の名前を短縮したり形や愛称で呼んでほしい傾向があり、日本語話者が「おじさん」「(姓)さん」というように姓や親族ことばで呼ぶ年上の相手などに対しても略称の名前で呼んでもいいことが比較的多いということなどを紹介しながら活動を試してみるのもよい。これらは、学習指導要領の「3. 指導計画の作成と内容の取扱い」の(2)にある国際理解に関する項目につながっていく。

次にNC1<sup>7)</sup>とNH1<sup>5)</sup>ではともに、一般動詞の現在形を用いて自分の好きなもの・行動について述べ、また、相手にインタビューする内容を扱った後、4技能をバランスよく活用するセクションで自己紹介をする内容が続く。Hi, friends!<sup>10)</sup>では、表1からもわかるように2学年を通して、自分の好きなもの(動物・スポーツ・食べ物・生き物・色・形など)を述べたり尋ねたりする活動もすでに行っているが、中学1年の内容は、自己紹介で述べる内容の構成方法を学び原稿を作る活動、他の生徒の発表を聞いてその記録をし、それに基づいて質問をする活動など、発展した活動になっていることがよくわかる。外国語活動では、すでに自分の日常生活・将来の夢などについて述べることも経験しているので、ひとこと将来の夢について述べることをここで奨励してもいい。NC<sup>7)</sup>・NH<sup>5)</sup>とも2年生の始めの方で将来の夢を語る単元が出てくるが、その際には「なりたい」だけでなく、「そのために何が必要であるか」「どうしたらいいか」などを述べたり尋ねたりする表現活動が加わってくる。これが小学校・中学校1年、2年と段階を踏んだ英語活動と考えられる。他にも、表1にあるように不定詞は中学2年の学習事項ではあるが小学校ではすでにI want to～.などで使用している。だとすれば、中学1年生から不定詞を含んだ「表現(成句)」を用いたコミュニケーション活動は行うなどの柔軟な活動も展開できる。

複数形は外国語活動でも学習するが、複数形を正確に用いることよりコミュニケーションの成立のほうが優先される。中学校では、複数か単数かによって動詞が変化すること、また、複数形の綴りが発音

ほど単純ではないこと、冠詞などが新たに加わってくる。いずれも日本語には必要とされない文法概念であるため日本語母語学習者が苦勞する事項の一つである。この点にはどうしても「憶える」ことが必要となり「楽しくない」と感じるころともなる。そのためにも地道な文法事項の学習作業に先に述べたカテゴリークイズのような活動を導入したり、展開活動で「できる・わかる楽しさ」を通して学習の推進力にしたい。人称代名詞が豊富に展開されるのも中学校1年の段階であるが、一般動詞の3人称単数現在形も日本語にはない文法概念であり、これらも複数形同様実用の場面の繰り返し使用を通して、またペア探しゲームの発展形で各人称の変形を完成するゲームなど外国語活動のゲームを利用した継続・展開が可能である。

この複数形を学ぶ際の話は、NH1<sup>5)</sup>では買い物をする場面で展開される。NC1<sup>7)</sup>ではhaveを中心とした文とともに用いているが、引き続き出てくるWe're Talking 4では、「買い物をしよう」という場面で複数形やhow many/muchの定着を図る活動を取り入れている。この買い物をするという活動は外国語活動でも必ずといっていいほど楽しく経験している。そこで、小学校では、買い物客と商店主が基本的・初歩的な表現で受け答えをする活動を行っているが、中学校では、例えばNH1<sup>5)</sup>に出てくる“Here's your change.”のようなおつりの受け渡しをすること、それ以外にも、買い物の対象を乗り物やコンサートのチケット・車・家などの高価なものなどに、「2個だといくら」、値引き交渉といった現実に見かける売買の活動などを組み込むこと、ドルなど他国のお金を通貨とするなど、それぞれの場合の英語表現などとともにさらに現実的な発展した内容にすることが可能である。

学習指導要領には、言語使用の場面の例としてこれまでに述べた挨拶・自己紹介・買い物、以外に道案内・食事も小学校・中学校ともにあげられている。中学校では、これに電話での応答・旅行などが加わっている。例えば道案内はNH<sup>5)</sup>・NC<sup>7)</sup>では扱う時期にばらつきがあるが、1年から3年にかけて交通手段等を尋ね、駅・バス停や時刻表を用いた会話が出てくる。外国語活動で学んでいる表現を確認した上で、該当単元の目標を明確にし積み重ねる形で表現を習得していく学習計画を3年間を見通してたてていくことが大切である。

#### IV. 結語

これまでみてきたことから、中学校英語教育と外国語教育は、ともに、内容も読み・書きについても、児童・生徒に求める理解・出力の作業の深さにおいて差があるものの与えられているものは限りなく近くなっていると考えなくてはならない。そこで、徐々に外国語を使った楽しい活動から得る喜びを、外国語でも自分の意見を述べることができ相手を理解し理解される喜びへ変えていながら知識としての英語も身に付けていくことが中学校英語に求められる姿であろう。そこには、Iでみた有識者会議での課題(2)にあるように、連続する小中間で使用教科書の分析・授業実態の相互交流などを重ねて行う機会を設けることがさらなる発展につながると思われる。

また、外国語活動のほうが採用しやすいのかもしれないが、英語がコミュニケーションの道具であることを考えると、他教科との有機的な学習を可能にする道具ともなる。例えば、「行きたい国(外国語活動)」「旅行(外国語)」の話題では、国名・国旗・地図上の位置・首都・特産物・気温・気候など社会・理科に関わる話題、文法事項や表現を通して日本語との違いや外来語・文学に触れ、和食・外国の料理のレシピを語ることは家庭科にかかわり、おつりの計算、日英の計算の言い方の違いなどは算数と、可能性が多岐にわたる。これは英語教育の特性として活用できるとよい。

2013年12月に文部科学省が公表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、2020年度を目途に小学校3年生からの英語教育開始、5年生からの英語の教科化、中・高での英語での授業実施等のための体制の整備が始まっている。小学校において従来の「聞く・話す」から「読む・書く・聞く・話す」の4技能の育成を考えていることは、中・高の英語教育の内容にも大きな変化をもたらすことになる。小学校の高学年では「自分の気持ちを伝える」が達成目標に加えられることなど、言語材料だけでなく言語活動も現在での中学校の内容が入ることは想像に難くない。変更の最中に在籍する学習者のためにも新しい改革の内容に留意しながらこれまで以上に緊密な小中連携のもと教材研究をすすめることが求められていくであろう。

## 注・文献

- 1) 表1は、Hi, friends! 1, 2<sup>10)</sup>と中学校1年生用の教科書との比較対照表である。Hi, friends!の内容は文部科学省のHi, friends! 関連資料から年間計画表をもとに抜粋作製したものである。NC1<sup>7)</sup>とNH1<sup>5)</sup>の内容はそれぞれの教科書の内容を基に筆者がまとめたもので、各項目の番号は単元の番号である。
- 2) ただし先述の第七回の有識者会議資料からは、調査した中学生の7割以上が読み書きを小学校でしておきたかったという回答があったとしている一方、小学生で文字指導に抵抗があるほか、アルファベットが書けない児童がいるという報告があるなど国語科とも関連して学習者間の差が生じている状況が見受けられる。
- 3) もちろん、外国語活動の中でも発音を解説付きで楽しく学ぶことは十分に可能で、例えば、ジュミック今井(2007)<sup>6)</sup>を例に取れば、/b/を『ブップブッ』といきおいよくスイカのたねをとばすかんじでね』というように解説することは楽しみながら正確な発音を身につける指導として参考になる。もちろん中学校でもこのような表現で指導していくことは有効であろう。
- 4) 大塚謙二(2008): 目指せ!英語の達人回 成功する英語の授業! 50の活動&お助けプリント, 明治図書出版株式会社, 東京。
- 5) 笠島準一、関典明他(2012): New Horizon English Course 1, 2, 東京書籍株式会社, 東京。
- 6) ジュミック今井(2007): えいご大好きーママとキッズの初めてのフォニックス, すばる舎, 東京。
- 7) 高橋貞雄 他(2012): New Crown English Series 1, 2 株式会社三省堂, 東京。
- 8) 文部科学省(2008): 小学校学習指導要領解説 外国語活動編, 東洋館出版社, 長野。
- 9) 文部科学省(2008): 中学校学習指導要領解説 外国語編, 開隆堂, 東京。
- 10) 文部科学省(2012): Hi, friends! 1, 2, 及び指導編, 東京書籍株式会社, 東京。
- 11) 渡邊時夫, 高梨庸雄, 齋藤榮二, 酒井英樹(2013): 小中連携を意識した中学校英語の改善, 株式会社三省堂, 東京。
- 12) 英語教育の在り方に関する有識者会議(第三回)配付資料 【資料3-1】(平成26年4月23日)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/102/shiryo/attach/1347444.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/shiryo/attach/1347444.htm)
- 13) 英語教育の在り方に関する有識者会議(第七回)【資料1】(平成26年8月8日)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/102/shiryo/attach/1351076.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/shiryo/attach/1351076.htm)
- 14) 小学校学習指導要領 新学習指導要領・生きる力 第2章 各教科 第1節 国語  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/koku.htm)
- 15) 小学校学習指導要領 新学習指導要領・生きる力 第4章 外国語活動  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/gai.htm)
- 16) 中学校学習指導要領 新学習指導要領・生きる力 第2章 各教科 第9節 外国語  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gai.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/gai.htm)
- 17) 新学習指導要領・生きる力 Q&A 2. 国語に関すること  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/qa/02.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/qa/02.htm)
- 18) Hi, friends! 関連資料 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1314837.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1314837.htm)